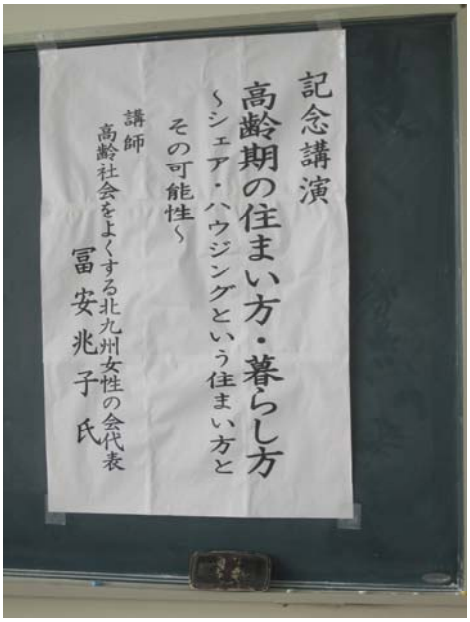
第 15 回総会記念講演会

「高齢期の住まい方・暮らし方」

～　シェア・ハウジングという住まい方とその可能性　～

２０１７年５月２７日下関市社会福祉センター

講師　冨　安　兆　子
（高齢社会をよくする北九州女性の会代表）



今、なぜシェア・ハウスか？
シェアする思想の今日的意味について、とてもわかりやすい講演でした。

少子高齢・人口減少社会の到来により、社会は大きく変わります。
その根拠は、・合計特殊出生率 全国 1.42%、生涯未婚率　.離婚率共に上昇
・高齢化率、全国 27%　北九州市 29%　下関市 33.8%
・人口自然減（2005 年から）
・世帯数の増加
・高齢者一人暮らしの増加など
今までの成長型社会から成熟型社会へ変わります。
21 世紀の成熟型社会は知恵を使う必要があります。「所有」から「分かち合い」です。

これからの多様な住まい方（熟型社会の住まい方）の処方箋として、
○スマート・シティ
○コンパクト・シティ
○江戸の長屋方式
○現代のシェア・ハウス（シェアルーム）

シェアハウスの運営の方式として、
　○事業所介在型
　○営利型
　○持ち家型
　○個室型

シェア・ハウジングの類型には、
　(1) ルーム・シェア、シェア・ハウス
　(2)コーポラティブ　ハウス（アメリカ型）
　(3)コレクティブハウス（北欧型)・家事や育児の共同化 ・コモンミール(共同炊事)
　(4)ホーム・シェア（スペインで始まりフランスで広がった、自分の家に住みながら他人を住まわせる）
　(5)グループ・リビング（グループ・ホーム）

まとめとして、共に暮らし助け合うということ です。
・「血縁によらない関わり」という選択
・「プライバシーか共同性か」という選択
　（プライバシーも共同性も、これらの仕組みを創ることが望まれます）
人間らしい生き方は、分かち合う住まい方(農村型住まい方)です。
この様な事を頭に入れておくとおかないとでは大きな違いがあると思います、と示唆して頂きました。
また 参加者からとても良い講演でしたと評価を受けました。